

成果の説明書

(氏名) 小熊 仁	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
○ 研究活動	
① 科研費（基盤研究 C：個人）に関する研究	
買い物弱者問題の解決に地域のソーシャル・キャピタルがどのような影響を与えるのかを検証するため、高崎市倉渕町に居住する 65 歳以上高齢者を対象にアンケートを行った。また、前年度に報告を行った交通空白地有償旅客運送を行う NPO 法人 30 団体を対象とした効率性評価について、下記の学会誌に投稿を行なった。	
・小熊 仁「NPO 法人による交通空白地有償運送の効率性評価」『非営利法人研究学会誌』,非営利法人研究学会,第 23 号,50～62 ページ【査読有】。	
② 科研費（基盤研究 C：分担）に関する研究	
離島航空輸送の経済価値とその価値構成を明らかにするため、伊平屋島、多良間島、波照間島において郵送によるアンケートを行った。また、離島航空および離島空港の現状を調査するため、対馬空港ターミナルビル、一般社団法人対馬観光物産協会、一般社団法人 MIT、対馬市商工会に対しヒアリングを行った。	
③ 高崎市地域課題研究	
高崎市の買い物困難地域と買い物弱者を推計するため、高崎市全域を対象に GIS を用い、自家用車利用や送迎利用の可能性をふまえ分析を行った。	
④ その他の研究	
昨年度実施した全国 1147 件の道の駅を対象としたアンケート調査をもとに、道の駅の経営効率性とその要因に関する分析を試み、下記の学会で報告を行った。	
・小熊 仁「道の駅の経営効率性と要因分析～全国の道の駅を対象としたアンケート調査から～」,日本交通学会第 80 回研究報告会,2021 年 10 月 10 日,慶應義塾大学（オンライン開催）	
併せて、下記の通り学会誌への投稿を行った。	
・小熊 仁「道の駅の経営効率性と要因分析～全国の道の駅を対象としたアンケート調査から～」『交通学研究』2021 年度研究年報,35～42 ページ【査読有】。	
○ 教育活動・社会活動	
① 教育活動	
本年度は、「交通政策論」（前期）、「観光交通論」（後期）、流通経済論（後期）、「基礎演習」（後期）、「演習 I」（通年）、「演習 II」（通年）、交通政策特論（前期：大学院）を担当した。Covid-19 感染拡大のため、講義はいずれもハイブリッドで実施し（演習は後期から対面実施）、基礎演習では「演習 I」への準備として、ゼミに決定した 2 年生を対象に交通に関わる基本文献の輪読とフィールドワークを行った。「演習 I」では「航空研究班」「鉄道研究班①」「鉄道研究班②」「道路班」の 4 つの研究グループに分かれ、学内懸賞論文への応募を行った（「鉄道研究班①」「道路班」は優秀論文賞受賞）。「演習 II」では、年間を通し卒論作成指導を行った（13 名全員卒論提出）。他方、学内業務としては、入試運営委員会の委員として、入学試験関連業務に携わった。	
② 社会活動	
下記の委員会で活動を行った。	
・ 国土交通省北陸地方整備局姫川水系流域委員会 委員	
・ 国土交通省北陸地方整備局関川水系流域委員会 委員	

2 その他の事項

該当なし

3 次年度以降の計画・抱負

今年度は JSPS 科学研究費補助金「ボランティア交通従事者の参加意識・心理とソーシャル・キャピタルの関係に関する研究」基盤研究 C 2019～2021 年度 4030 千円の最終年度であったが、Covid-19 感染拡大により一部調査の実施に見通しが立たなかったため、翌年度へ延長となった。本年度は当該課題の調査実施に注力していく。同様に JSPS 科学研究費補助金「離島交通に関する非市場的価値の評価と住民の意識構造に関する研究（基盤研究 C）」の調査研究にも取り組み早期の成果公表に向けて研究に取り掛かりたい。